

広めよう!

ご近所福祉 ネットワーク活動

～ ふれあい・いきいきサロンのつながりを活かした、～
ご近所での見守り、声かけネットワークづくり

「ご近所福祉ネットワーク活動」は、これまでのふれあい・いきいきサロンを、さらに一歩すすめた活動展開として、多くの県民の皆さんと行政・社協・専門職等が協働して進める、身近な地域での見守りや、困りごとの早期発見の仕組みづくりです。



ご近所福祉ネットワーク活動とは

1 生活・福祉課題（困りごと）の早期発見の仕組みづくり

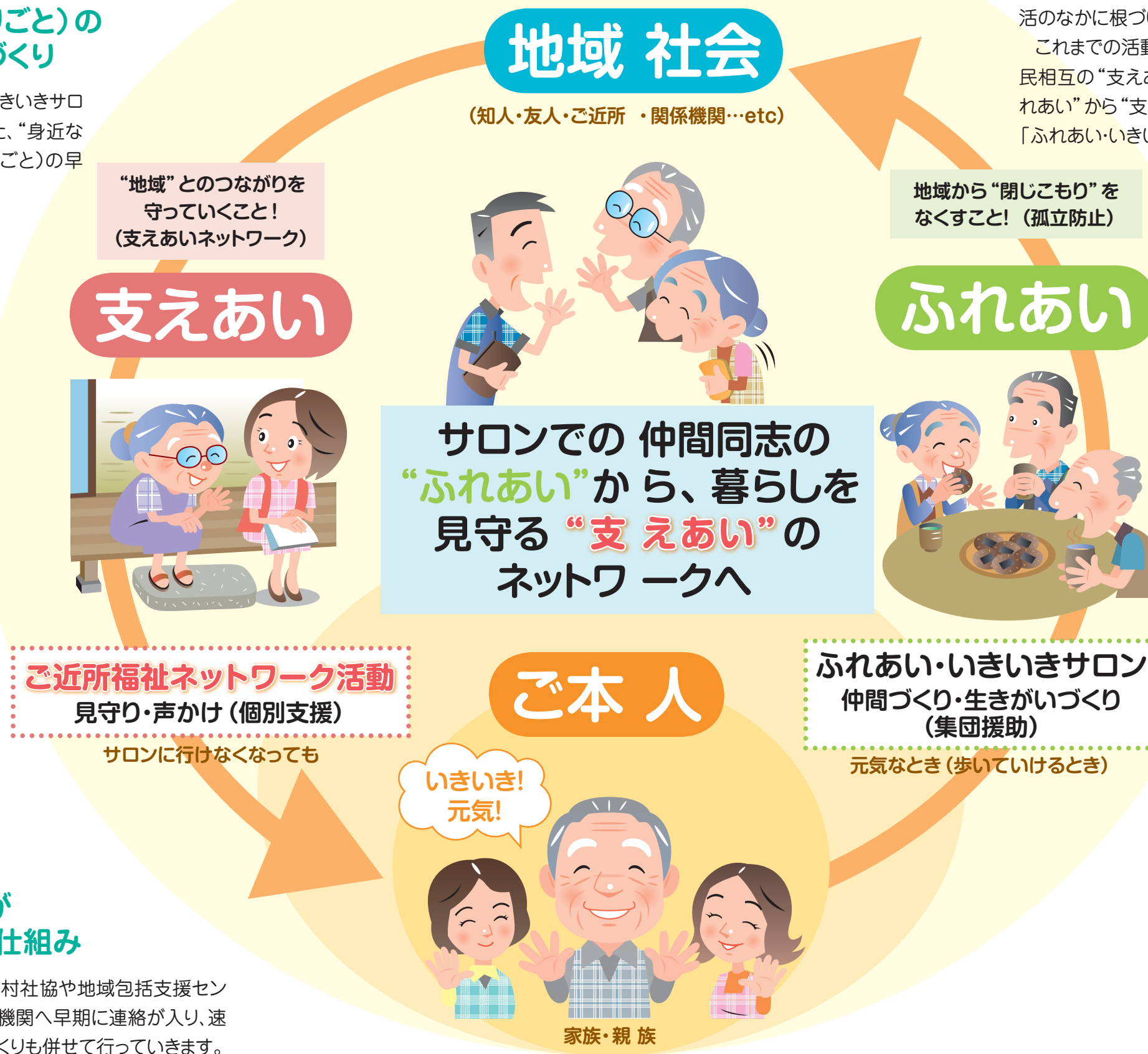
その目的・意義は、ふれあい・いきいきサロンで深まったつながりを活かした、“身近な地域での、生活・福祉課題（困りごと）の早期発見の仕組みづくり”です。

2 住民同志がごく自然に行う、見守り・声かけ活動

「ふれあい・いきいきサロン」に集う方々のなかで、例えば「1人暮らしで、普段の生活に不安がある方」や、「体調の不具合や病気等で、サロンに出て来られなくなった方」など、何か地域で気になる方について、同じサロンの仲間や、その地域の民生委員、福祉委員が協力しあって、ごく自然に見守り（安否確認）や声かけ訪問を行っていくものです。

3 家族、地域、専門職が一緒になって支える仕組み

もしも何かあった際には、市町村社協や地域包括支援センター等、各種の地域福祉の専門機関へ早期に連絡が入り、速やかな対応がなされる仕組みづくりも併せて行っています。



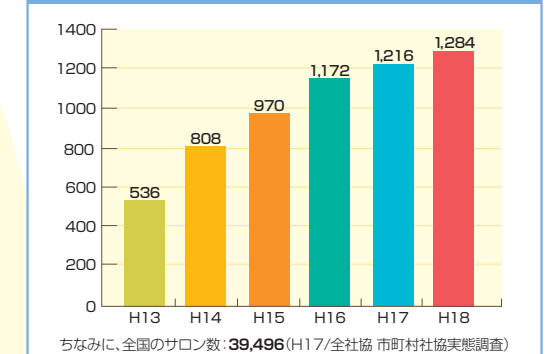
ご近所福祉ネットワークづくりの背景

現在（平成18年3月時点）、「ふれあい・いきいきサロン」の輪は、県内のほぼ全域（26/29社協 約1,300箇所）にまで広がり、今や県民の生活のなかに根づいてきていると言えます。

これまでの活動展開で培った、地域住民同志の人間関係をさらに、住民相互の“支えあい活動”の展開につなげていく、いわゆる地域の“ふれあい”から“支えあい”へステップアップさせていくことが、これからの「ふれあい・いきいきサロン」活動の目標と言えます。

岡山県におけるふれあい・いきいきサロン数（H13～18）

★ふれあい・いきいきサロンは、着実に広まっています！
県内：1,284 サロン、26/29 市町村（H18.4）



※岡山県社協 社協便覧 把握

ご近所福祉ネットワーク活動が必要とされる理由

今日、地域において、一人暮らしの方、高齢者のみの世帯など“気になる人（心配な人）”が増えていくなかで、同じ地域（地区）に住む地域住民が常日頃から福祉の視点を持って、見守っていくことが求められています。

身近な地域での見守りや困りごとの早期発見の仕組みづくりが求められています



サロンで深まった人と人とのつながり

専門職や一部の役の方々だけでなく、地域全体で、福祉の気持ちをもって、見守っている福祉の風土づくり

ご近所福祉ネットワーク活動の進め方

1 取り組みに向けた合意形成づくり



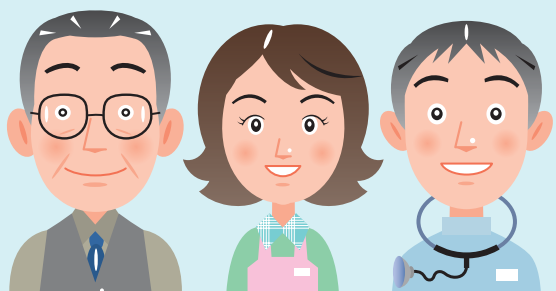
- 「ご近所福祉ネットワーク活動」について、世話人を中心に話し合いをします

2 気になる方、心配な方についての話し合い



- 一人暮らしの方など、見守り・声かけが必要な方、心配な方について、どのお宅に訪問するかを決めます

3 専門職や地区の民生委員との連携づくり



- 訪問する方について市町村社協など専門機関と情報共有・申し合わせをしておきます
- 地区の民生委員とも訪問する方についての情報共有や申し合わせなど、連携を図ります

4 気になる方、心配な方への訪問活動

- サロンのメンバー同志で気の合う方が訪問し、おしゃべりしながら、ごく自然な形で見守りをします



5 「何か様子がおかしい」際の連絡の申し合わせ

- 何かあった際の連絡先をあらかじめ決めておき、そこへ連絡します



1 取り組みに向けた合意形成づくり

ご近所福祉ネットワーク活動についての話し合い

まず、「ご近所福祉ネットワーク活動」について、世話人さんを中心に、その必要性や趣旨を確認し、サロンで取り組んでいくかどうかを決めます。



ポイント

「できるだけ、地区の民生委員や市町村社協など専門職にも話し合いに入ってもらいましょう!」

専門機関との“つながり”づくり

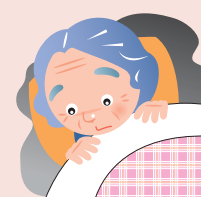
取り組むことが決まったら、市町村社協や地域包括支援センターにも相談し、今後のサロンで行う身近な地域での見守り活動の進め方について、一緒に考えてもらう“つながり”をつくりましょう。

2 気になる方、心配な方についての話し合い

サロンのみなさんのなかで、「ちょっと心配だなあ」と思い当たる人について、話し合い、あげてみる

例えばこんな方

- 一人暮らしの方、高齢者のみの世帯、昼間一人の方など、前までよく来られていたのだけれど、最近調子が悪くて来られなくなった方など
- 地区の方で誘っても出てこないけど、どうしているのか心配な方など



寝たきりの方



一人暮らしの方、高齢者のみの世帯



最近サロンに来なくなった方



閉じこもりがちな方

ポイント

すべての人をあげる必要はありません。わかる範囲、無理のない範囲で結構です。

3 専門職や地区の民生委員との連携づくり

専門職や民生委員との 情報共有・共通認識づくり

気になる方、心配な方の確認、選びだしが決まったら、専門職や地区の担当民生委員にも連絡しておきます。

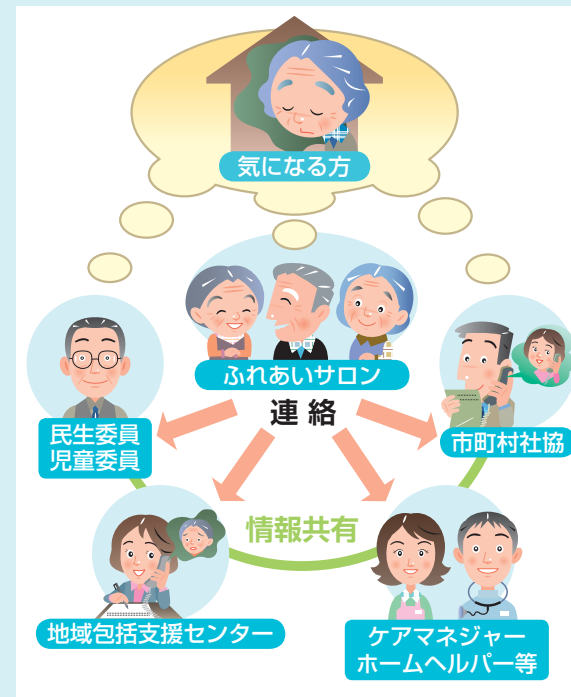
専門職や民生委員が、把握されている情報との照らし合わせを行ってもらうなど、見守り・声かけ活動についての情報共有、共通認識づくりを行っておきます。

ポイント

専門職とは、地域包括支援センター、市町村社協、福祉担当課などの職員や、ケアマネジャー、ホームヘルパー等が挙げられます。

連携のネットワークづくり

サロンで見守り・声かけ活動を行っていくことを、専門職や地区の民生委員に知らせておき、何かあった際の連絡の申し合わせなど、連携・ネットワークづくりをしておきます。



4 気になる方、心配な方への訪問活動

ごく自然に様子を伺い、おしゃべりを通した安否確認

サロンのメンバーのなかで、ご近所の方、仲がよい方などが、行ける範囲で、様子を伺いにいきます。

訪問する日、時間などの取り決めや責任などとはできるだけなくして、無理のない範囲で、“通りすがり”や“ついで感覚”で結構です。ごく自然にお伺いし、おしゃべりなどを通した安否確認をします。

訪問したことの記録について

訪問した際の様子など、気がついたことを専門職やサロンの仲間同志で確認しあえるよう、「連絡カード」(仮称)の作成についても、必要に応じて検討してみましょう。「連絡カード」(仮称)については、負担にならないよう、訪問日時とその時の様子の記入欄など、記入項目は、できるだけ簡素なものになるよう心がけましょう。



5 「何か様子がおかしい」際の連絡の申し合わせ

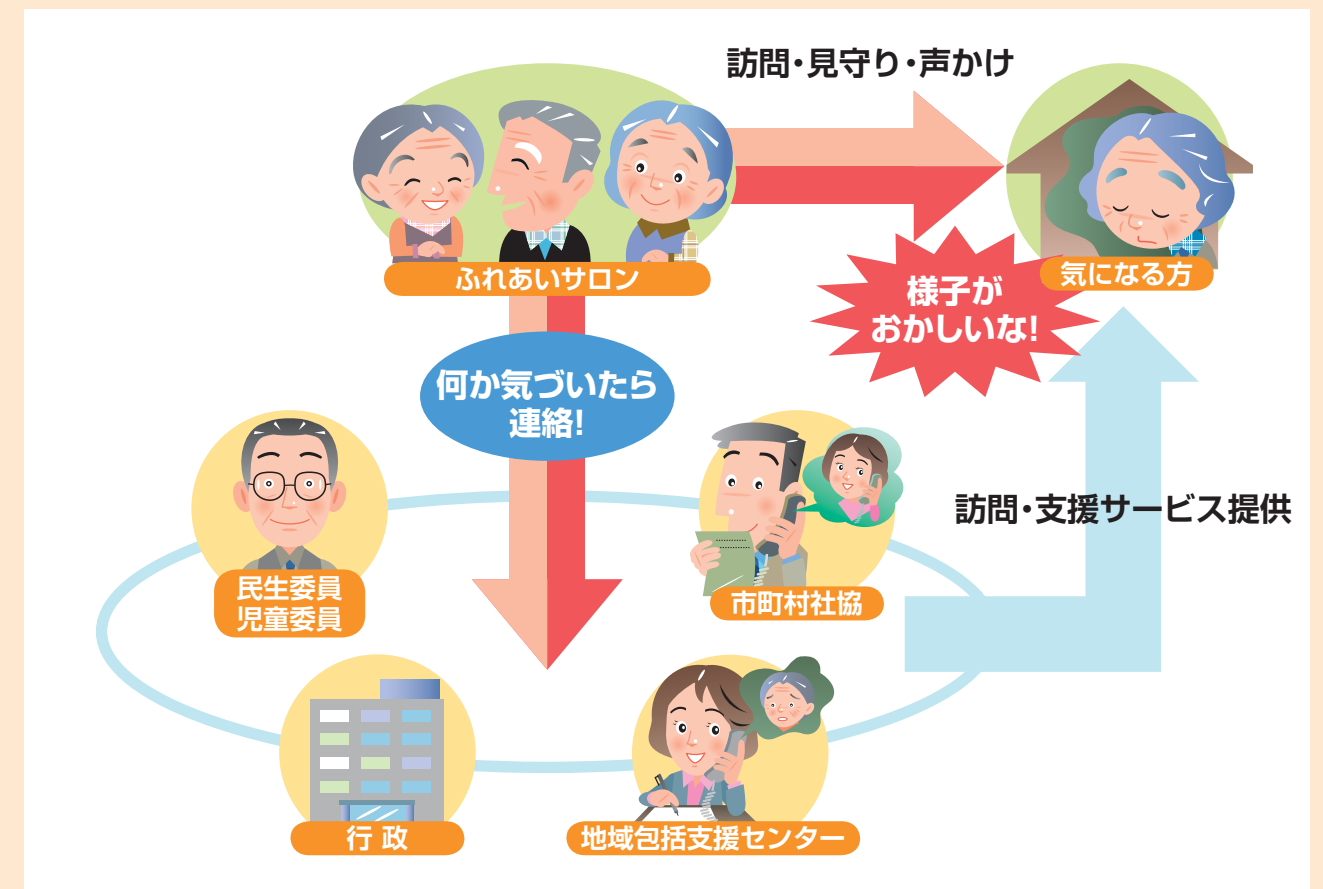
早期発見の仕組みづくり

お元気であれば、問題はありませんが、もし、「何か様子がおかしい?」と思った際は、専門職あるいは地区の担当民生委員など、誰かに、ひとこと連絡がいくよう、事前にサロンのなかで決めておきましょう。

ポイント

“いざ”という時の連絡先のひとつとして…

気になる方や心配な方のほうからも、「いざ」という際には、連絡や相談を入れてもらえるような、申し合わせについても検討してみましょう。



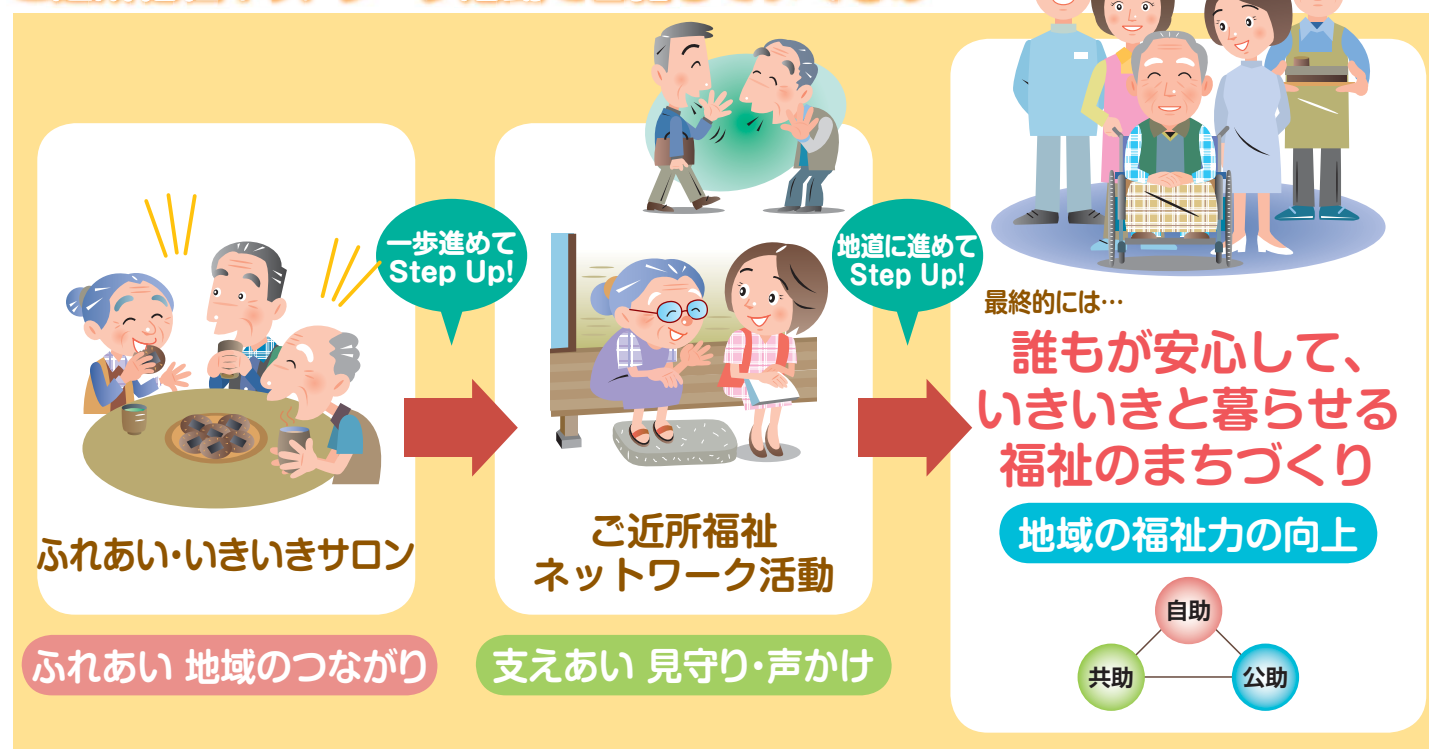
“地域”と“専門職”が一緒になってつくる見守りネットワークづくり

サロンの皆さんに協力してもらうことで、身近な地域での安心した暮らしに向けた、見守りネットワークが出来上がっていきます。

ふれあい・いきいきサロンと連携した 見守り・声かけのよい点(メリット)について

- 「安心感」 知らない人への声かけでなく、気心が知れた方同志での声かけなので、自然な感じでお互いに安心
- 「個人情報の同意」 もともとサロンの仲間うちなので、個人情報の取り扱いについても本人同意の説明や理解が得られやすい
- 「小地域ネットワーク」 サロンにはいろいろな地区の役の方々や専門機関が関わっているので、周知や連携がとりやすい面がある
- 「きめ細かさ」 身近な生活圏域を単位に開催しているサロンの皆さんに協力してもらうことで、よりきめ細かな見守りの仕組みとなる

ご近所福祉ネットワーク活動で目指していくもの



お問い合わせは
こちらへ
どうぞ

岡山県社会福祉協議会 地域福祉部

〒700-0807 岡山市南方2丁目13-1

岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館(きらめきプラザ)内

TEL 086-226-2835 FAX 086-225-6602

E-mail: syakyo@fukushiokayama.or.jp URL: <http://www.fukushiokayama.or.jp>

